

## 令和5年度 上田市総合教育会議(令和6年2月16日) 議事録

### 1 開会

### 2 土屋市長あいさつ

本日は、それぞれお忙しい中、上田市総合教育会議にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

日頃から、それぞれのお立場で教育に対しまして、また、行政に対しましてもご理解ご協力、ご助言をいただきありがとうございます。

本日のテーマは、「部活動の地域移行について」ということでもあります。

この地域移行については、これまで様々な報道の中でも、また県の方でも動きがあるところがございますが、国で「学校部活動および新たな地域クラブ活動のあり方等に関する総合的なガイドライン」が示されたのが昨年度であります。このガイドラインに沿ってそれぞれの市町村では、地域移行につきまして協議をしているということでもあります。

長野県においても、部活動の地域移行に関する「新指針案」及び「ガイドライン案」が示され、市町村や学校に対し意見聴取がされているということでもあります。

部活動の地域移行に当たりましては、地域クラブの設立、あるいは指導者確保など、市町村への支援策につきましても検討がなされているとのことでもあります。

新指針、ガイドライン等につきましては、3月の県教育委員会定例会で決定される見込みとお聞きしております。

上田市では、議会の中でも地域移行に関しまして様々な質問も出てきております。

その中で市といたしましても、昨年12月、「第1回上田市地域クラブ活動推進協議会」が開催されました。

様々な立場の皆様からご意見を伺いながら、上田市のあるべき姿、あるいは方向性を決定していく必要があるため、本日ご出席の教育委員の皆様のお立場やご経験に基づくご意見等もいただきながら、上田市地域クラブ活動推進協議会と情報の共有を図り、推進計画の策定に向けて取組を進めてまいります。

スポーツに関して申し上げますと、昨年12月に、上田市ではスポーツ都市宣言を制定したところでございます。これは、令和10年度開催予定の「第82回国民スポーツ大

会」が長野県で開催されるということもありますし、生涯スポーツ社会実現に向け取組を一層進めるため、昨年宣言したということでございます。

また、国ではこども家庭庁が設置され、上田市としても「こどもまんなか応援サポーター宣言」を行ったところでございます。

様々な点で次の世代を担う子どもたちに、広く豊かな心の育成を図る中で、しっかりと次の世代に繋げていきたいと思っております。

様々なご意見もありますが、この部活動の地域移行に関してしっかりと上田市としても取り組まなければいけませんし、また一步一步前進していくということも大事でありますので、本日の総合教育会議の中でも忌憚のないご意見をいただければ大変ありがたいと思っております。

お忙しいところご出席いただいたこと、心から感謝申し上げます。

どうぞよろしくお願いいたします。

### 3 峯村教育長あいさつ

上田市総合教育会議の開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

日頃から土屋市長には、上田市の教育行政発展のため多大なるご支援ご協力をいただいております、誠にありがとうございます。心から御礼を申し上げます。

さて本日は、「部活動の地域移行について」をテーマに、土屋市長と意見交換をする機会をいただきました。

これまで中学校の部活動は、特定の競技や活動に対しまして学級や学年の枠を超えて、自主的・自発的に集い、顧問の指導のもとで個人や集団としての目的や目標を持って取り組むことにより、人間関係の大切さ、チームを機能させることの重要性を学ぶことができる重要な教育活動として行われてきました。

しかしながら、少子化の進行や教員の働き方改革を踏まえ、国は令和4年、「学校部活動及び新たな地域クラブ活動のあり方等に関する総合的なガイドライン」を策定いたしました。

このガイドラインでは、令和5年度から令和7年度までの3年間を改革推進期間と位置付けて、部活動の段階的な地域移行・地域連携を進めるとしております。

今後、少子化の中でも、子どもたちが生涯にわたってスポーツ・文化芸術活動に親しむことができるよう、環境整備を行い、教員の負担軽減に繋がる仕組みの構築が必要でございます。

このため、昨年12月、関係団体、保護者、校長等で構成する「上田市地域クラブ活動推進協議会」を発足いたしました。

まずは、休日の学校部活動の地域クラブ活動への移行に向けて、様々な立場からご意見を伺いながら、上田市のあるべき姿、方向性についての推進計画を策定してまいります。

本日の会議では、部活動の地域移行に関する国のガイドラインの概要と、上田市の対応状況を説明させていただき、土屋市長のお考えをお聞きしながら、教育委員の皆さんとの意見交換をお願いしたいと考えております。

本日の情報共有や議論を通じて、生徒の希望に沿った体制の構築に繋げることができればと思っております。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

## 4 会議事項

### (1) 部活動の地域移行について

#### ● 学校教育課長

資料1及び資料2により説明

#### ● 学校教育担当係長

資料3-1及び3-2、資料4、資料5により説明

#### ● 土屋市長

事務局にお聞きするが、この会議での意見は「地域クラブ活動推進協議会」で、どのように扱われるのか。

#### ● 小野沢教育次長

上田市教育委員会が諮問を行っている附属機関ということで、「地域クラブ活動推進協議会」に諮問させていただいているため、それはいずれ議論が成熟したところで答申という形で出てくることになる。

本日はあくまでも、市長、教育委員の皆さんが、それぞれの思いをこの場で自由に語っていただきたい。何かこの場で決定するということではないため、それぞれ個人的な思いを語っていただければと思う。

### ●土屋市長

部活動の地域移行について、どのような形が良いかということは、これから協議会で議論を進めていくことになるが、教育委員の皆さんからの意見をお聞きしたい。

### ●教育委員

今の子どもたちの現状と、学校の先生方の現状を踏まえたときに、現在のような部活動の仕組みの中で従来通り継続をしていくのは難しいのかなということは、様々なデータやアンケートの結果で非常によくわかる。

しかし、国の方針が具体的に出ている中でも、学校の中での部活動で培ってきた意義というものは、やはり継続していくことが重要ではないかと思う。

運営の仕組みは変わったとしても、小中学校の子どもたちの成長過程の中で、体の成長とともに精神的な成長も大きく培われる時期だと思う。

私の息子たち、特に下の息子は小学校のときはサッカーのクラブチームに入っており、中学校では部活動をしていた。その中で精神的な成長過程を見たり、人間関係の中で様々な学びがあったということが、成人した現在も継続して大きく反映されているところだと思うし、その中で培われた友人や、諸先輩方、指導していただいた方々とのお付き合いも、成人した以降もずっと繋がっている。

現状として、少子化があったり、先生方の負担というところで、運営の仕方は、検討して変えていかなければいけないと思うが、やはりそういう時期に生涯に渡ってスポーツや運動ということを継続していける、そういう心身ともに成長していける土台を作っていくためにはどうすればいいのかということだと思う。

今まで学校の中で進めていた良さとしては、例えば経済的な格差の面で、移動について考えてみても、学校内の範囲でやれば、平日は移動も学校の中だけで済み、校庭や体育館の中でできる。また、ユニフォーム一つとってみても負担は大きかったが、先輩方からお下がりをいただくなど融通を利かせたり、学校の先生方を通じてそういった配慮をいただいたりということができたわけである。

経済的な格差で、子どもたちのスポーツ活動が左右されてしまうようなことが懸念されるが、そういったことが起きないようにすることが非常に配慮すべき点かと思う。

## ●教育委員

部活動の子どもたちにおける意義という部分は本当に大きいもので、私の子どもたちも部活に育ててもらったというような側面を大きく感じているところである。

社会の変革とともに、子どもを取り巻く環境というものを大きく変えていかななくてはならない時期に来ていると感じているとともに、私達自身の意識自体も改革をしていかななくてはならないと感じている。

大きくは、人とお金の問題があるかと思うが、先ほど市長もお話いただきましたように、「こどもまんなか」ということで、やはり地域全体で子どもを育てていくという視点はとても大きいものがあると思う。

指導者に関しては、それぞれのスポーツ団体やスポーツ協会へ登録するようなこともあるかと思うが、最終的にはその個人の方の力量や考え、姿勢みたいなものによるところがとても大きくなってしまおうと思う。

やはり専門のプロの指導者のような形でやっていくということは、現状難しいと思う。働いている方に指導者になっていただくことについては、兼業の問題も出てくるため、企業の協力なくしてはそういった面も解決できないのではないかと思う。

県の指針の中にも、市の役割として、指導者の育成というような部分があったが、現在はどのスポーツ・競技団体でも、指導者に審判の資格が必要になるといったような状況が出てきている。そうした中で、資格を取るということに対してのサポートが、今後きっと必要になってくるのではないかと思う。そういうことが子どもたちに対しての指導力や、子どもたちがよりよく成長していけるということに大きく寄与していくのではないかと思っている。

お金の面に関しては、指導者への報酬の件などあるが、今までほとんど無償に近いような、先生方のボランティア的な活動によって支えられてきた。

地域移行する中で、先ほどの部活指導員といった立場の方も入っていただいたりするわけだが、当然、報酬の財源確保は厳しいものがあると思うし、保護者のアンケートにもあったように、保護者の負担というのも抑えていかなければいけないという側面もある。そういった部分で、地域で子どもを育てていくという側面や、企業の社会貢献活動といった側面からも、企業など民間の力がこれから必要になってくるのではないかと思う。もしくは市民の方からの寄付ということも考えられるかもしれない。そういったものも含めた財源確保というようなことも、きっと必要になってくるのではないかと感じている。

保護者へのアンケートで、移動手段についても心配されているという結果だったが、これに関しても、例えば、民間企業が移動手段である学校間のバスの運行費用などに協力し、代わりにバスに企業の広告を入れてもいいですよというようなことも考えられる。また、市で行うスポーツ大会に冠大会のようなかたちで企業の名前を入れられるようにするなど、様々なやり方があるのではないかと思う。

やはり財源に関しては、企業さんの協力も考えられ、報酬もしっかり支払わなければ持続可能な回り方をしていけないのではないかと考えている。

もう一点は、県教委の方でも、種目ごとに市町村単位でやった方がいいもの、少し広域でやった方がいいものというような案が出されていたが、特に競技人口の少ない種目については、広域で考えることも当然必要になってくる。上田市はある程度規模があるが、近隣の市町村では単独でやるのは難しい自治体もあると思うので、広域的なことも今後は考えていかななくてはいけないと思う。

いずれにしても、横断的・抜本的な意識の変え方をしながらやっていかななくてはいけないのではないかと考えている。

## ●教育委員

部活動は、学校では学べない多くのものを得る場だと思う。ここにおられる多くの方々も、部活動で学ばれたことで強く印象に残っている思い出や、自分の糧になった様々なことをお持ちになっていると思う。

自分が親になったときに、やはり子どもにも自分と同じものを学んでもらいたい、貴重な体験をしてほしいということで、保護者としてもサポートをするのだと思う。

私も中学生の娘がおり、文化部なので親が頻繁に送迎をするということは求められていないが、同じ世代で運動部に入っている保護者の方々のお話を聞くと、休日は大会や練習試合の送迎で1日かかり、子どもの部活動のために終わってしまうというお話をたくさん聞く。

でもきっとそれは子どものことを応援したい、貴重な体験を積んで欲しいという思いから、そういうことをしているのだなというふうに思って、いつも話を聞いている。

部活動の現状と地域移行の状況の説明などをお聞きし、課題がたくさんある中で、子どもが少なくなり、部活動のチーム自体が編成できずに部活動の種目自体がなくなってしまうことや、経験のない先生がストレスを感じながら指導しなければいけないことなど、そういった現状を考えると、やはり見直しをしなければいけない時期であることは間違いない。

保護者の立場から言わせてもらおうと、ここまで保護者の負担があつていいのかなという思いも日々感じているところである。

地域移行ということで、みんなで議論をして、そもそも部活動はどういうものであつたらいいのかということから、子どもたちにどういったことを学んでもらいたいのかということ十分に議論していただきたいと思う。

子どもたちへのアンケートを見ても、休日はゆっくりしたいというお子さんも結構いるため、休日の部活動をそもそもやるのかやらないのかといったことも十分に議論していただきたい。

より良い部活動になるような転換点であつて、チャンスの時期だと思うので、先ほど指導者の方への報酬のお話も出たが、今後より良い部活、より良い子どもたちの学びの場になってほしいと思う。

## ●教育委員

いただいた資料を何度か読み返してみて、文化庁の資料にしても県のものにしても、生涯学習の位置づけなど運用の意味はよくわかる。

それから、地域で子どもを育てていくということを大きく打ち出しているということも大いに意味はあると思うが、いくつか疑問も出てきた。

高校までずっと部活を続けてきた自分の経験だと、高校の最後の大会が終わったとき、正直に言うと、ようやく離れられたというのが正直なところである。

ただし、その時の経験が後の自分の生き方にはすごくプラスになっている。

高校で一緒にやったクラブの仲間は職業科でしたが、部活の特技を活かして体育の大学に進み、高校の先生になって最後終わったという人もいた。

実際、自分が現場にいたときに、部活の中で頑張つて少しできるようになったら、それが好循環になり、学習の方でももう少し頑張ってみるとなったような例もいくつも経験してきた。もちろんその反対もある。

部活動はスモールステップが踏みやすい。私達の仕事は、子どもが少し頑張つたら超えられるようなハードルを目の前に置いてあげるといふことをしていくが、そういったスモールステップを置いていくのは、そのスポーツ経験のある指導者のほうが経験のないものよりも上手だと思う。

ただ、なかなかそのハードルを超えられない、本当に頑張つても超えられない子どももいる。そんな時、その子自身も丸ごと包み込んであげるような、あなたがそこにいてくれるだけで100点満点じゃないかという面もあれば、今よりもう少し上手くなろうという

ような気力が生まれてくると思う。より高いものを求める世界と今のその姿が素晴らしいという二つのせめぎ合いで教育は成り立っていると思う。

この地域クラブに移行することによって、部活動が学校教育の一環としての教育課程であるという部分をこれからどれだけ維持していけるか。頑張ってもできないという私のような人をどのようにして拾ってもらえるか、頑張らせてもらえるかというのはとても気になることである。

アンケートを見た中で、土日は休みたいという比率が多く、平日の学校部活動と同じ活動をしたい人の割合は少ない。部活動にない種目をやりたいという意見もあることから、私が今まで教育現場でやってきたことや、部活動に期待している姿と、今の子どもたちが望んでいることは少し変わってきているのではないかということも感じる。

これから休日の部活動が地域クラブに移行していく中で、子どもたちの動きを見ながら見極めていかなくてはいけない。こちらが望んでいる姿と子どもが部活に望んでいる姿とが合わないことには絶対うまくいかないで、休日の部活動を地域に移行していく中で一番じっくり見ていかなくてはならないところかと思う。

地域移行したときに、保護者の経済力によって差がでないように、最大限の配慮はしていかななくてはならないと思う。

### ● 峯村教育長

部活動の地域クラブ活動への移行というのは大変大きな問題・課題であると受けとめている。

委員の皆さんのご発言をお聞きし、皆様から深くご理解いただき、研究されているなということを強く感じている。私も思いは同じである。

今まで学校教育の中で部活動をやってきたメリットは何かということを考えると、人間関係を作ることができることや、コミュニケーション能力があがる、技能の向上、同じ意志を持つ仲間と同じ目標に向かって頑張る、気力や体力、そういったものも部活動で養われてきたのではないかと思う。

逆にデメリットがないわけではない。人間関係ができるということもあるが、それとは逆に人間関係で悩む生徒もいた。それから、学業との両立がうまくいかないというような思いを持っている生徒もいた。

また、勝利至上主義との関連で、同じ部の中でも、自分たちはもっと強くなるんだと思う仲間と、そこまでは自分ではできないと思う仲間がおり、どうもベクトルが合わないというような悩みを訴えることもあった。

様々な長所短所があったが、別の意味で課題も生まれてきている。

例えば、今上田市は少子化が著しく進んでおり、中学校の部員が減少している。

それから、クラブチームへ流れる子どももいる。各中学校では、やむを得ず休部しなければならない学校や、大会に出場するには連合チームでないと出られなくなってしまった学校もある。

そのような状況から、部活動でトップアスリートを育てるような時代ではなくなってきているということも、課題として感じている。

子どもが減るということは、教職員も減るということであり、そうなる学校での部活動の顧問も減るといった状況があり、先ほど説明にもあったが、自分で経験したスポーツや文化芸術活動と違うものを担当しなければならない教員もおり、非常にストレスを感じているようなところもある。

勝利至上主義は指導者にもなきにしもあらずであり、残念なことに暴言や体罰は県下でも起こっており、それも大きな課題だと思う。

それから、自分がやりたいスポーツが中学校の部活動にないというのも大きな課題である。

このような課題を解決するために、推進協議会の今後の協議検討、それから答申を待ちたいわけだが、個人的には、部活動の地域クラブへの移行もそうだが、今後の上田市をどうしていくのかという、部活動の地域クラブへの移行もそうだが、全体を考えていかなければならないということがあると思う。

先ほど、市長からスポーツ都市宣言のお話があったが、要するに、生涯スポーツや生涯学習、そういった子どもから高齢者までの長いスパンの中で、この部活動の地域移行、それから地域クラブ活動をどう進めていくかということが、大きな課題ではないかと感じている。

ここをクリアしていくことで、上田市民が、子どもも大人も高齢者も体を動かすのが楽しいと思うような上田市になっていくのではないかと考えている。

ただ、危惧されることもあり、令和5年度の長野県全体の小・中学生が運動する時間や、体力に関する調査があった。

上田市も同じだと思うが、運動する時間がどのくらいあるかという問いに対し、小学校の女子児童は、授業での体育の時間を含めて1週間に約4時間半であり、これは全国最低の47位である。男子児童は8時間であり、これは全国で45位である。

中学校は、女子児童が28位、男子児童が32位ということで、この結果を見るとあまり体を動かそうという気持ちがあるのかなということが心配である。

ただ、運動時間は少ないが、体力はさほどでもない結果が出ており、令和5年度の体力測定によると、5年生の男子は全国で12位、女子は24位。それから中学校男子は16位、女子は35位であった。

これは嬉しいところではあるが、やはりこういったデータを見ても、運動離れが著しくなっているのかなと感じ、これをどうしていくのかということを検討していかなければならないところだと思う。

先ほども出たが、自分のスポーツを選べないということもあるが、例えばパリオリンピックで種目になっているボルダリングや、スケートボード、ブレイキンといったものをやりたいという子もいるのではないかと思う。

そういった子どもたちのために、どのように活動の場を広げてあげればいいのかということも、今後考えていかなければならない。

今回、大きな改革のときを迎えている。単にこれまで中学校でやっていた部活動の種目を、地域で面倒を見るという考えではなく、もっと広い意味で捉えていくべきではないかと考えている。

## ●土屋市長

この地域移行に関しては、学校教育の中でも大きな位置づけだろうと思っている。

プロを目指しているような人は、例えばスポーツ少年団のようなところで頑張るといような形になると思うが、そうでない方もいる。

私が中学生の時も、なぜその部活動に入ったのかよく覚えていない。友達が言ったからついていった気もする。

大会出場ということで頑張りたいという人はもちろんそれでいいが、様々な体験をすす中で、もしかしたら違う部分が伸びるという人もいるかもしれない。

選択肢が多くあって、種目を選べるような仕組みがあればいいのかなと思う。

また、部活動指導員と外部指導員という、二つの仕組みをよく理解していなかったが、この辺の視点が本当に大事だと思う。

部活動指導員の先生方あるいは外部指導員の先生方が、先生の働き方改革も背負っている感じもあるが、働き方改革でやるのかっていうとそうではないのかなというイメージだと思う。

いずれにしても、その方向性というのは推進協議会の方で出されるということだが、この推進協議会の委員を見てみて、校長先生やPTA会長などいらっしゃるが、外部指導員や部活動指導員の方、クラブの現場を知っている方も必要ではないか。ワーキン

グループといった形でもいいので、そういった方の意見を汲み上げられると、厚みも出て現場の空気が感じられるのではないか。

休日は休みたいというのは何となくわかる。平日は授業を頑張っているから休日は休みたいということだろうなと思う。そこら辺はまた方向性が出てくればと思う。

#### ●教育委員

現状では、受け皿となる地域クラブや、新たに指導員として名乗りを上げてくださる方、種目などが具体的に見えないが、地域クラブに移行していくという方向性で進めていったときに、地域移行にすると種目が増えるだとか、自由にできるという方向に果たしてなるのかが懸念される。

現在は、学校部活動ということで設置しているので、これだけの種目ができていると思うが、地域に移行することにより、むしろ逆の方向に動いてしまうということはないのか心配である。

#### ●峯村教育長

その点も大変心配されるところである。

受け皿については、各種スポーツ団体の皆さんにお願いせざるを得ないのかなと考えている。それについても推進協議会の結論に委ねるところではあるが、選択肢が減ってしまわないようにしたい。

今まで中学校の学校の中で一生懸命やってきた子どもが、土日に何もやらないでボーッとしている、気力が湧かないというようなことになってしまうのも心配である。

もう少し時間をかけて検討していかなければいけないと考えている。

#### ●教育委員

事務局に確認するが、保護者のアンケートで、月謝の負担については、休日の部活に対しての報酬ということか。それとも、今後、平日も含めた形で移行していくことを想定し、平日も含めた金額で聞いているのか。

#### ●学校教育課長

今回のアンケートでは、休日の活動に対する月謝について伺った。

## ●教育委員

これから地域移行となると、保護者の方にある程度負担していただくということも当然出てくるかと思うが、今まで部活に対しては無償でやってもらっていたという意識が保護者の方にも強いので、今後、お金を出さなくてはならないというところで、抵抗はあるかと思う。

現在、私も小学生の野球の指導をしているが、最初のうちはやはり保護者の方は、塾などには月に何万円と払っているが、スポーツ少年団のようなところだと、月に1,000円、2,000円でも抵抗を感じるような話があったりする。

しかし、それが実際に動き出して、指導者の方たちがいろいろと親身にやっている様子を保護者の方々も見始めると、1,000円、2,000円なら安いねという話に変化し、もっと指導者の方々にも手当を出せるようにしてあげてくださいということが起きてくる。

そういった経験から、最初始めるときには抵抗が強い部分も少しあるかもしれないが、実際に動き出して、その活動が良い方向に動いていけば、その辺の理解もきっと得られるのではないかと思っている。

## ●教育委員

アンケートに関して、教員への質問が、働き方改革1本に絞ってあると思うが、少し寂しい。子どもと部活動をやっていてこんないいことがあったよとか、こんな苦しいことがあったよというような生の声が聞こえてくると良い。このままの方向で進んでいってしまうと少し寂しいというのが正直なところである。

## ●教育委員

令和9年から地域移行をスタートするというスケジュール感とのことなので、今のタイミングではまだイメージが湧かないというのが皆さんの率直な感想だと思う。

細かいところでは、月謝はどうなるのか、保護者の負担はどうなるのか、事務的なことは誰がやるのかといったところで、皆さん本当に不安に感じていると思う。

この移行期は転換点であり、より良くなるチャンスの時期であると思うので、じっくり腰を据えて、こういうかたちになってよかったねとみんなが思えるような地域移行になるといいと思う。

子どもたちが、地域の方々と一緒に部活動も体験して、貴重な体験を積んでいくということは本当に素晴らしいことだと思うので、たくさんの皆さんの意見も集約して、最適な形で地域移行が進んでいけばいいと思う。

## ● 峯村教育長

スポーツ庁、文化庁がこの案を打ち出してから、一定程度経過しており、全国各地でモデル的に実施しているところがあるが、その状況を見ても、これを上田市に導入したいと思う事例は今のところ見当たらないというのが現状である。

例えば、指導してくださる方の謝金の金額を決めて予算をたてた自治体がある。現在は、モデル事業ということで、一定期間は国の交付金・補助金が3年間もらえるが、それがつかなくなったらはどうするかということで非常に焦っている自治体がある。

上田市が、同様に実施しようとすると同様に年間5千万円以上の費用がかかることとなり、これは、上田市の財政が非常に厳しい中で、実現できないであろうと思う。

そのため、公的な資金から謝金を支払うというのはかなり厳しいと思うが、一定程度、スポーツ団体に対して、交付金・補助金を出していただく中で、子どもから高齢者までを視野に入れた中で、少なくとも申し訳ないがこれでなんとかやってもらえないかというような形がいいのかなと思う。市長にこれからお願いしたい。

お金を決めてお金だけで動く、とても苦しい状況になると思っている。

いずれにしろ、多くの自治体で取組を実施しているが、一つだけこれは避けたいと思うことがある。自治体で指導者を養成して、今までの中学校の部活動をそのまま地域へ持ってきて、それで競技力を向上して、大会出て良い成績を上げたというようなことを言っている自治体もあるが、それでは今までと同じで、別に変わらない。

そういうことではなく、スポーツ都市宣言を中心とする生涯体育、またサントミューゼを中心とする芸術文化活動と生涯学習、それに向けて大きな枠組みで、教育委員会と市長部局の各部門が協力しながら進めさせていただければありがたいと思う。

## ● 土屋市長

本日は、それぞれの皆様から地域移行に関して、課題点も含め様々なご意見をいただき、ありがとうございました。

子どもたちがやりたい活動ができる環境を作っていくということが大切だと思う。それには費用負担はどうするか、費用面が理由で子どもたちが活動を諦めてしまうということにならないように考えなくてはならないと思う。

また指導者の確保、あるいは活動場所、活動範囲など、様々な課題があるだろうと思う。教育長も触れていただいたように、学校教育だけではできない範囲だということだ

あるため、これはスポーツ・文化・芸術に関わる多くの皆様と一緒に進めなければならぬと思う。

また、企業の皆様、地域の皆様との連携協力も大切だと思っている。

市としても、教育委員会と連携しながら取り組んでいきたいと考えている。

今後、協議会でも現場の声を聞くようにして、進めていただければと思う。

次回の総合教育会議もこのテーマで続けることになると思うので、協議会での議論の進捗を皆さんと確認しながら進めていきたい。

本日は大変お忙しいところ、総合教育会議にご参加いただき心から感謝申し上げます。

ありがとうございました。

## 5 その他

### ●小野沢教育次長

本日は、部活動の地域移行という非常に広範なテーマであったため、教育委員の皆様と市長との間で、問題の背景、市内の部活動の状況、小中学生と保護者に対するアンケートの実施結果等、現状認識を共有していただき、皆様の思いを言葉で語っていただいた。

今後、協議会の運営を進める中で、現場の声を極力汲み上げて、令和6年度も審議会の議論を進めていきたいと考えている。

最終的には協議会の答申をいただく中で、教育委員会定例会で、部活動基本指針の改定をしていきたいと考えている。そうした中で、地域の皆様のご協力や企業の皆様のご協力、また予算が絡む問題もあるため市長部局とも協議をしながら、最終的には議会でご判断いただくといった流れになろうかと思う。

今後、まだまだ解決しなければならない論点があるが、引き続き教育委員の皆様、市長部局の各部局と連携しながら進めてもらいたいと思う。

引き続きよろしくお願いたします。

## 6 閉会